CF(ケース・フォーミュレーション)Ⅱ

セラピスト用

目的：問題がどのように発現し、悪循環となっているかを、主訴に関連する要因を含めながら簡潔に解明し、過去に遡って問題の全体像をつかむ。

①遺伝や体質などの｢素因｣

②家族関係や病気、過去の出来事に関する｢発生要因｣

③周囲の無理解や不適切な介入などの｢発展要因｣

④現在の悪循環である｢維持要因｣

⑤｢考えのわな｣

⑥CFの役割が達成できたかの確認項目

□CFⅠをもとに認知・感情・行動のつながりについて示すことができたか（黒色）

□CFⅡをもとにセラピストが見立てたことをクライエントに図に示し、説明して納得したか（青色）

□クライエントまたは家族は自己理解を深められたか（ただし家族と共有するときは許可を得る）

□クライエントとの関係作りに役立ち、主体的に治療に取り組むための動機付けになったか

□どのような支援が効果的か仮説が立てられたか

CF(ケース・フォーミュレーション)Ⅰ

クライエント用

問題がどのように悪循環となり、維持されているかを一緒に解明しよう。

何が起ったの？

何を思ったの？

どんな気持ち？

どうしたの？